

ファンドマネージャーの眼

ファンドマネージャー独自の視点で市況を分析



『逆境時こそ基本に忠実に』

2016年9月12日

エクイティ運用部

筆者は約20年にわたり、日本株式の調査、運用業務に携わっております。数多くの業種や企業を調査してきた経験から、調査対象企業の業績が短期的に会社予想や市場コンセンサスを上回るかどうか、中長期的に拡大し続けるかどうかなど、ファンダメンタルズの分析力は相応に身につけてきたと自負しております。

従って、業績と株価の連動性が高い投資環境においては、業績拡大が見込まれる銘柄を高位に組み入れておけば、良好な運用成績につながるケースが多く、心理的にも落ち着いて運用業務に取り組むことができます。

一方、かつての持ち合い解消に代表される株式需給の悪化や近年頻発している地政学的リスクの高まりなどにより、業績と株価の連動性が低下する投資環境においては、ノイズが株式市場を支配するため、航海図のない船の如く、運用成績は不安定になります。もちろん、運用成績の改善に向け最善の努力は行いますが、ファンダメンタルズ分析を拠り所としてしてきた筆者にとって、このような投資環境下で逆境を克服するのは容易ではありません。

今年も、英国の国民投票における欧州連合（EU）離脱派の勝利をはじめ、数多くの政治的ショックがありました。その間、投資家のリスク回避姿勢が強まり、ファンダメンタルズとは関係ないマイナス材料が一時的に株式市場を支配する展開となり、筆者が運用するファンドも苦戦を強いられました。

しかし、中長期的に企業の業績と株価は連動すると確信しています。だからこそ、筆者は逆境時において通常以上に「基本に忠実」に行動することを徹底します。筆者が考える株式運用における基本とは、「足で稼ぐ」ということを意味します。業績拡大により中長期的に株価上昇が見込まれる企業を発掘すべく、時間が許す限り外出し、企業への直接訪問や企業説明会への参加などを通じ、精力的に業績に関連する情報を収集します。

逆境時においては、焦りや動揺など心理的に不安定になりがちです。足で稼ぐことは、外の空気を吸うため気分転換につながるうえ、企業訪問におけるヒアリング内容や企業説明会における質疑応答などが、新しい投資アイデアや有望銘柄発掘のヒントとなり、それが運用成績改善に向けた転機となることもあります。

逆境を乗り越える最適解は人それぞれ違いますが、筆者は「足で稼ぐ」ことを徹底したいと思っております。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、あくまで情報提供を目的としたものであり、一部主観及び意見が含まれています。最終的な投資判断は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、ファンドマネージャー等の実際の運用等に何ら制限を加えるものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。